

岩手郡医報

高橋 孝先生書



夕焼けの岩手富士

Contents

- 平成12年度岩手郡医師会総会
- 学術並びに特別講演会
- 第12回岩手郡医師会親善報告ゴルフ大会
- 第52回岩手県医師会親睦野球大会報告
- 病院見学: Maui Memorial Medical Center 訪問記
- 新入会員自己紹介
- 編集後記

66
2000.9.No.65
岩手郡
医師会

平成12年度定期総会

日時：平成12年5月18日
午後3:00
場所：ホテル東日本

●高橋会長 御挨拶要旨

我々は岩手郡医師会の基本理念である「和と誠意」に基づいて、歴代の先輩が残された功績を汚す事なく会務を運営していた。その元となるのは五箇条のご誓文ではないけれども、「万機、公論に決すべし」という考え方で、幅広く意見を聞き、より良い方向を見いだしていくということです。

衆議院は2日に解散した。日本医師連盟は当面の課題となっている、医療制度・医療保険制度改革・社会保障構造の在り方等の議論を、真に国民のためのもの、医療の本質に則ったものにするため、日医の主張する理念・政策を理解し、実現に向けて推進協力する議員の当選を期しているので、来る衆院選には支持政党を自民党に1本化すること、1選挙区1候補の推薦とするので、強力な医政活動の展開をお願いする。



政界の混迷・衆議院解散のため、今国会に厚生省が提案した法案である健保法等改正案、医療法改正案、予防接種法改選案は審議未了のまま廃案となった。成立すれば医療制度改革の第一歩となるはずだったが、政治の都合でその歩みが停滞してしまったことは残念である。

一方、今国会で成立した法律の中には、直接医療を対象としたものはないが間接的に医療機関に関わってくるものが多い。例えば改正廃棄物処理法、児童虐待防止法、消費者契約法などがそれである。消費者契約法に関しては日医が小冊子を作り会員に周知するが、このような新たな法律を制定して義務を課すなら、事前に関係部局から医療機関に対し十分な説明をすべきで、医療機関が困惑する事態は避けなければならない。

本日の通常総会は、平成十一年度の収支決算についてと小沼先生・平光先生お二人の講演があります。議題の審議は講演会のご静聴をお願い致します。



●各部門別事業計画の報告

すでに前総会にて承認を頂いた平成12年度事業計画についてスタートしているわけであるが、担当別にその事業計画の概要を簡潔に説明した。

総務(及川) 地域医療(久保谷) 保険(佐々木) 健康教育(柄内) 生涯教育(岡本) 県医師会(西島) 医師連盟(根本) 労災(篠村) の各部会の報告が担当理事よりなされた。また、産業医(八角)、学校医(上原)、広報(坂井)は県医の委員会が重なり、不在のため議長より説明が追加された。



議長を務める高橋孝副会長



労災部会報告中の篠村理事

●議 事

- 1) 平成11年度岩手郡医師会一般会計決算書の承認を求める件
- 2) 平成11年岩手郡医師会休祭日当番医決算書の承認を求める件
- 3) 平成11年度岩手郡医師会特別会計決算書の承認を求める件
- 1) 2) 3) は総務(及川)から報告説明された。
- 4) 監事の三善悟先生、細井信夫先生より会計監査報告があり、合せて3つの決算書は承認された。
- 5) その他：岩手医学会の会費の納入を個人負担またはこれまで通り岩手郡医師会負担とするかとの検討課題が会長の高橋牧之介先生より提出され論議の結果これまで通り郡医師会の負担で対応することにした。

学術講演会

「糖尿病・動脈硬化・高脂血症の管理」

順天堂大学医学部内科学代謝内分泌学講座

助教授 小沼 富男先生

座長 西島康之副会長

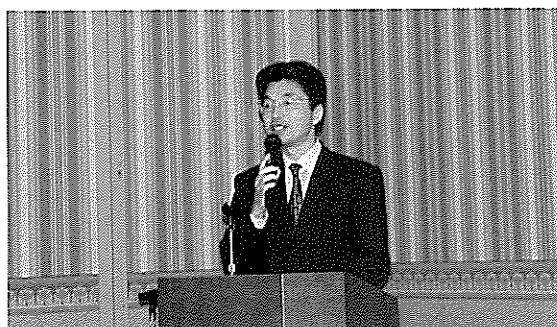
1) 学術講演 要旨

糖尿病は脳梗塞・心筋梗塞と極めて高い相関関係を有する血管系の病気であることに注目する必要がある。九州の久山町の疫学的調査でも明らかなことであるが、糖尿病に高脂血症が合併するときの病態については注意が必要で特に食事療法ではエネルギー代謝とコレステロールを下げる工夫と食物纖維を豊富に取ることが大切である。



また高血圧、高脂血症動脈硬化、糖尿病、肥満等が重なるときに、インスリン抵抗性の増大する病態(インスリン抵抗性症候群)が関与し、それに加えて遺伝的体質およびこれらの病態を増長させる生活習慣が極めて密接に関連することが明らかになった。

これまで人類は飢餓時代を、長い間、生き延びてきたわけであるが、人類の発生した時代の長さを一日の長さに凝縮するとすれば、飽食の時代は最後の3秒の長さに過ぎないという。いわば肥満等は生活習慣病の温床であり、なるべく生活の内蔵脂肪が蓄積されないような工夫と努力をしていく必要がある。



特別講演 私の審判人生・プロ野球よりもやま話

ニッポン放送プロ野球解説者 平光清先生
座長 高橋牧之介会長

●講演要旨

野球はアメリカのスポーツである。したがってルールの基本は「アメリカ」を理解しないといけないと思う。1980年代からアメリカのアンパイヤーとつきあいする機会に恵まれたが、本場の野球をアメリカ人の心を通して見たいと思ったのである。アメリカの代表的なスポーツはバスケットボール・フットボール・野球であろう。その面白さの受け止め方に気がついたが、たとえばシャワーは日本では夜または夕方浴びるものであるが、アメリカではシャワーとは朝浴びるものであり、すっきりとして一日を始めると言う。また簡単に知人としてのおつき合いは可能であるが、友人となることは極めて困難である。アメリカの審判員は「和・輪で審判する」のだそうで、その判断と基準はアメリカ人の心を理解しないと分からないし、やっていけないのである。

日本の球団では一番お金をかける球団は何と言っても巨人であろう。昔 New York Yankees も最強チームを作るためにかなりのお金を使った時代がある。日本ではトレードやドラフトそしてフリーエージェント等はあまり活発にならない、それはプロ野球の立場が異なるからではないかとも思う。日本では監督が審判に抗議するときには手を前にして話すが、アメリカでは手を後ろにして話すのであり、根本から異なるのである。それはアメリカのプロ野球に係わるために戦略的な競争をくぐり抜ける必要があり、さらにまた自分達の社会的な地位と権威を維持するための努力はすぎまじいものがある。アメリカの審判員をみると日本の大相撲の行司のことを想い出します。その目つきの鋭さと厳しさは大変なものがあ



る。プロが「その基本としてプロの仲間に、他の人に勝ち、最後まで勝者であり続けること」これがプロの本質なのであろう。またプロとは「頭と度胸」であるとも言われる。その根底に基本練習を徹底的に教えることである。指導者がそれが出来ないと昇進はあり得ないそのような世界である。したがって基本を身につけるために失敗の経験および自分なりの経験を通して教科書を自分で作り上げることが出来なければプロにはなれないということが言えよう。また練習のやりすぎは、「自分の教科書」でやるのであれば問題はないと思う。プロは社会にも通用する必要があり、その基本として「Thank you, excuse me, after me」の精神が大切である。様々なプロ選手を見てきてそれぞれの特徴を観ることが可能となったが、その基本を作るのは、集中力、反省力そして自ら考えて基本から考え直すことができる素直な心が大切ではなかろうか。天才と凡才はどこが違うのかそれは単身アメリカに行って、多くのタイトルを獲得した野茂投手の投手の生き方から学ぶことができる。その大切なポイントの第一は努力のポイント、第二は反省のポイントそして第三は悔しさのポイントではないだろうか。アメリカのプロから学ぶことはやってみて考える人間を育てることになると思い、日本のプロは大いに学ぶべきことが多い。

(文責及川 忠人)

●懇親会

会長挨拶の後、3名の新入会員の自己紹介があり、懇親会の中で平光先生に対する質疑応答がなされ、日頃のプロ野球の内幕を独自の立場からユーモアたっぷりにお話をうけ、楽しい一時を持つことが出来た。



第10回岩手郡医師会 親睦ゴルフ大会

於：岩手沼宮内カントリークラブ
日時：平成12年7月2日

優勝
三善 悟先生

当日は同門会、懇ぶ会、その他冠婚葬祭がめじろ押しで、会員の参加者が少なく、少數精銳で優勝杯をめざし悪戦苦闘した。

参加者：高橋会長
瓜田先生
三善先生
細井先生
小山田先生
坂井



優勝者 三善先生の声

この度は、月並みではありますが、同伴競技者、キャディー、天候にも恵まれ、優勝の栄誉を与えていただきました。会長杯の優勝リボンを見ますと、平成9年以来の優勝で、沢山の賞品（優勝、ドラコン、ニヤピン、大波賞）は最愛の孫達への最高のプレゼントになりました。メデタシ、メデタシ。



見事な始球式に自画自賛の高橋会長



ボールの行方を心配する小山田先生



見事池越え優勝者の三善先生

(文責 坂井博毅)

第52回岩手県医師会親睦野球大会に参加して

八角医院 三善 悟

平成12年8月27日(日)。担当盛岡市医師会で、県営球場をメインに、高松・松園地区8球場で開催された。

天気は土曜日午後から雨との予報であったが好天に恵まれた。盛岡医師会小林会長の挨拶の中で、岩動副会長が何日も前から、テルテル坊主に願をかけたと話されていたが、天に通じたのでしょうか。

7:30集合。球場の駐車場が広大で、薬屋さんの簡単な誘導で済むので助かった。各チームの受付。キャプテン会議(Dr.嶋出席)と進み8:00開会式。役員選手入場。開会の辞、臼井副会長。セレモニーも全く簡潔。挨拶も石川県医師会長。大会実行委員長小林会長。次期開催地花巻市医師会高橋会長と審判長。永年選手表彰は40回出場の花巻高山選手が代表で終了。当医師会からは25回出場佐々木久夫、篠村達雅両選手が表彰された。閉会の辞。岩動副会長、開催地の首長の挨拶もなし。従って例年の様に、プラカード持つ看護学生の倒れる様も見ずに済んだ。

吾がチームがメイン球場でやるのは記録つけてから初めて。

メンバー(対遠野)

- 1 高橋 智弘(左)(西根病院)
- 2 久保谷康夫(投)(鷲宿温泉病院)
- 3 村井 真也(遊)(葛巻病院)
- 4 八巻 一浩(捕)(鷲宿温泉病院)
- 5 高橋 邦尚(中)(滝沢村)
- 6 大津 友見(一)(沼宮内病院)
- 7 成島勝之助(三)(玉山村)
- 8 植田 修(右)(滝沢村)
- 9 嶋 信(二)(西根町)

相手は遠野医師会チーム。噂によると有力選手2名が転勤と聞き、第1戦は貰った、と思っても何があるか判らないのが勝負。1回、遠野の攻撃で四球・盗塁とヒットで1点失う。彼らは相手チームの投手不調を極め、四球で常に塁は一杯。成島選手の満塁三塁打。嶋選手の三塁打。久保谷選手のヒット等で、何と18点。2回表遠野3者凡退。バッターボックスへ8・9番一度も立てず、時間切れで岩手郡完勝。

2回戦は昨年準優勝の盛岡B。平成2年まで小生監督していたチームで、38回大会は優勝もしている。

メンバー(対盛岡市B)

- 1 高橋(智)(左)
- 2 大津(一)
- 3 成島(三)
- 4 八巻(捕)
- 5 久保谷(遊)
- 6 村井(投)
- 7 高橋(邦)(中)
- 8 植田(右)
- 9 嶋(及川忠人)(二)

1回表、岩手2死後成島ショートオーバーのヒット、すぐ盗塁。4番八巻のセンター前ヒットで1点を先取。

1回ウラ、1番三振にとるも三連打とエラーで4点献上。

2回表ランナー1人出るも後続なし。

2回ウラ 1死後四球盗塁・三連打ヒットで2点、2・3盗されパスボールで1点と計3点。

3回表2死後成島三塁線を抜く二塁打で出るも得点にならず。

3回ウラヒット、死球・四球などで満塁は0点に押さえた。

4回表、岩手郡の攻撃は45分超えた場合、新しいイニングに入れずの規定で、残念ながら⑦-①で敗れました。

今大会に出場予定の土谷・小野両選手が止むを得ぬ事情で欠場したことが返す返す

も残念でした。ただ今まで地方の学校のグラウンドや河川敷でしかやれなかつた野球を、それも2試合もプロもやる県営球場で、スコアボードにはポジション、選手名も出て気分最高の大会でした。小林会長が昭和46年この球場で当番医師会として開催してから30年ぶりと言つてましたが、私もここで30年前選手宣誓をしたたとを思い出し感無量でした。

試合を終え、北松園の国民年金健康センターもりおかに向い、入浴。懇親会に出席。冷たいビールに喉を潤し、御馳走を喰らい、今年の大会も終わりました。

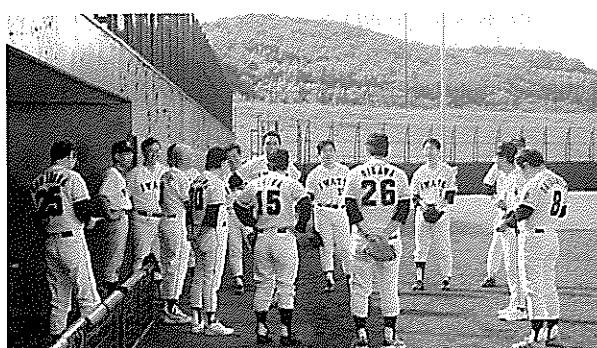
来年は花巻市医師会が担当。花巻温泉で皆様をお待ちしております。と高橋会長が話されておりました。鬼に笑われても良い

から、来年の事。会員の皆様に参加・応援の程よろしくお願い申し上げます。

ベンチで応援の、高橋会長・西島・及川・佐々木・篠村・高橋(眞)選手。本当にご苦労さまでした。



岩手郡医師会オールメンバー



ミーティング



懇親会

Maui Memorial Medical Center訪問記

坂井 博毅

約25年前、全国の産婦人科の開業医が集う「東京オペグループ」の会員となった。このグループは東京杉並区で開業している杉山四郎先生を中心に、都内の数人の開業医が集まって、安全と手術技術の鍛錬のためにグループで手術をする会から始まった。

そして会は手術の安全と研鑽にとどまらず、『良く学び、良く遊び』をスローガンに、親切医療と良質の医療サービスを求め、手術見学、国内外のセミナーを定期的に開催するようになった。手術見学は主に杉山医院で行ったが、札幌医大で数回とイギリスのマンチェスターでも行った。こうした東京オペグループの活躍を目の当たりにした、全国津々浦々の産婦人科の開業医が、グループ手術に加われなくても、手術の見学とセミナーの参加を切望し入会を求めた。そしてついに会員が500人を超える全国組織のグループに成長した。現在会員が増え過ぎて手術見学は不可能になったが、約500を超える施設での分娩と手術内容を1カ所に集計し、アメリカやヨーロッパの大病院の統計に負けない数の産婦人科統計を年1回出すことが出来るようになった。学閥が無いこと、年数回の医師や看護婦のための国内外のセミナー開催、医療施設見学が開催されることなどが大きな魅力である。特に海外セミナーは最大の楽しみである。

様々な事情で毎回参加とはいかないが、数年に一回参加させていただいている。

ミレニアムの記念すべきTOG海外旅行はハワイ、マウイ島であった。ゴルフが充分楽しめますという甘い言葉に誘われて、われわれ夫婦も参加することにした。

4月29日、留守を娘に頼み、留守にする医院への後ろ髪はきっぱり切断し、一行30名と共に成田空港を飛び立った。

病院見学は、Maui Memorial Medical Center (M.M.M.C) であった。

病院見学のグループは手術見学でお世話になった札幌医大名誉教授、橋本先生御夫妻、団長で大阪の小阪産病院院長竹村先生御夫妻、広島で盛業中の久松先生など、そうそうたるメンバーの中に加えていただいた。

5月2日、このツアーを企画した観光会社の赤坂社長の送り迎えで、久松先生とワエアラエG.Cで、ぬかりなく早朝ゴルフを楽しんだ後、ちゃっかり病院見学に加わった。

M.M.M.Cに着くとJonathan院長みずからが出迎えてくれた。見学に先立ち、Jonathan P.Weisul院長、Aaron Alutura産婦人科部長、Shirley Chung-Ming産科婦長、Judy Kodama集中治療室婦長の4人の方々から、病院の概要、system、そしてtranceport nurseなど特殊看護婦等、主に産科部門の解説をいただいた。

M.M.M.Cは1884年4月24日、免疫を持たない原住民を西洋から持ちこまれる疫病から守るため、Queen Kapiolaniによって設立された。開設当初はベット数20で、Mather Marianneと2人のsisterだけで診療にあたる小施設であった。現在では産婦人科を始め12の科が開設され、ベット数は200床で、年間の分娩数は約1800となり、マウイ島の全施設分娩を行っているとのことである。

施設の概要の解説の後、施設内を見学させていただいた。systemが異なるため、当院で即応用出来ない面もありますが、参考になる事が多々あり感銘を受けた。

施設面ではLDRのインテリア化された無影灯、お見舞いにいただいた花束を飾る棚など機能性に加えて、全ての患者様への心配りが行き届き、ハワイらしく印象的でした。

た。ソフト面では産科病棟のインホームドコンセントやクリニカルパスのために多くの資料を使い、患者様との相互理解に努力されていた。それらの資料もちょうどいいした。

合理的で進歩的なアメリカ医療の明るい光に感銘を受けたが、その陰に、膨大なエネルギーが医療訴訟防止のために使われている現状と、本来、患者様のために良質の医療を求めたはずのマネジドケアが、利益追求過剰のために、行き過ぎの医療費抑制政策を生み出し、それが病院経営を圧迫し、過剰な病院の統配合を余儀無くし、アメリカの医療をゆがめている暗い陰のあることも垣間見た。

弁護士や医療保険会社には利益をもたらしても、病院の利益にはつながらず、高い医療保険料を支払えない多くの国民が近代医療の恩恵にはあづかれないと、競争原理にゆだねた自由経済理論を医療に当てはめ、アメリカ医療に歪んだ大きな暗い陰を落とした。収入の少ない多くの国民は日本の生保にあたるメディケアで治療を受ける。これが最低限の縛りのため、充分な医療がなされず、低所得者層の多くを苦しめてい

る現実を切々と訴えていた。

10年後にはアメリカの医療が導入されることが多い日本ですが、このアメリカの失敗を見て、日本では民間医療保険会社の設立やマネジドケアの導入は無いだろうと感じた。

今年から日本でも保険診療に導入された。入院治療計画書（クリニカルパス）はその利用度、その深さからみてかなり進んでいる様に思えた。私も医療の質の向上と治療方針の患者様との共有も求めて、今年始めから独自のクリカルパス、治療計画書を作り、分娩入院を始め、手術その他の入院患者様に実行していましたが、不備が多く、悩んでいたが、多くの資料をいただき、その改善に大いに役立った。

Jonasan院長を始めスタッフの方々に感謝し終わります。



Maui Memorial Medical Center 玄関前にて



M.M.M.C.スタッフとの意見交換

新入会員自己紹介

中村 篤志 (なかむら・あつし)

生年月日：昭和36年8月13日生

所属：県立沼宮内病院

役職：内科長

専門：消化器・肝臓病内科

(自己免疫性肝疾患)

略歴：平成元年3月、聖マリアンナ医科大学卒業。同年4月、岩手県立中央病院研修医。平成2年4月、岩手医科大学第一内科入局。平成11年、岩手医大附属花巻温泉病院内科助手。平成12年4月より現職。

趣味：音楽・DVD鑑賞

地域の方々の期待に少しでも答えられる
ように、日々精進してまいりたいと思います。

八巻 一博 (はちまき かずひろ)

出身：福島県相馬市出身。

出身校：昭和58年 仙台一高卒。

平成2年 聖マリアンナ医科大学卒。

趣味：ゴルフ。釣り。

特技：柔道。(未だに未練があり、トレーニングしている。)

特徴：肥満体。酒好き。

平成3年より(社)鶴宿温泉病院 整形外科
に勤務しております。

この度、岩手郡医師会に入会させていた
だく事になりました。微力ながら、地域医
療に貢献すべく、頑張りたいと思います。
よろしくお願ひいたします。

小豆嶋眼科クリニック

小豆嶋 純子

(しょうしま じゅんこ)

この度、生まれ故郷である岩手町に開業出来ました事は、とても感慨深い思いです。片道一時間かかりますが、四季折々の眺めや香りを肌で感じて、主婦・母親の顔から、身も心も切り換えるには、ちょうど良いかなと思っています。金沢医大を卒業後、岩手医大眼科に在局し、その後、川久保病院に勤務しておりました。絵を書いたり、観賞したりする事や、暇さえあれば、本屋を覗いて、コーヒーハンスに読書する事が、私にとって至福となります。中学三年の長男を頭に三人の子持ちであり、毎朝、お弁当作りから始まり、夜、子供の寝息を聞きながら、ともすれば、疲労困憊する事もありますが、子供の寝顔や、患者さんの「お蔭様で、良くなりました。」と言う笑顔が、又、明日への活力となります。

これからも、地域の皆さんに喜んでもらえる医療をめざし、諸先生方の御指導、御助言を頂きながら、私なりに精進していくたいと思いますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



高橋 真理
(たかはし まり)

生年月日：
昭和48年5月21日生
出身地：盛岡市
現住所：盛岡市緑が
丘

出身学校：岩手医科
大学医学部（平成9年度卒業）

診療科目：麻酔科

趣味・特技：バレーボール・映画鑑賞・ド
ライブ・英会話



岡田 行生
(おかだ ゆきお)

盛岡市出身
昭和47年
岩手医大大学院修了
48年 秋田労災
病院整形外
科



51年 北上済生
会病院整形外科医長

54年 岩手医大整形外科講師
58年 県立宮古病院整形外科長
62年 県立胆沢病院整形外科長

平成12年 県立沼宮内病院院長

この度、平成12年7月より栄内第二病院で勤務することとなりました。若輩者ですので皆様方のご指導のほど宜しくお願ひ申し上げます。

今年4月県南の水沢から転勤して参りました。今まで総合病院の勤務でしたが、地域小規模病院の勤務は初めてでとまどいもありましたが大分慣れてきた様です。地域の先生方とともに地域医療のために働きたいと思います。よろしくおねがいいたします。沼宮内病院は^{平成}14年新幹線盛岡以北開業のとしに、現沼宮内高校のグランドの地に新築移転の予定で、現在設計中です。趣味は夏はゴルフ、冬はスキーで上手にならないのが長続きの秘けつのようです。



編集後記

これまで広報担当理事として、永年ご尽力いただいていた、嶋信先生が3月の郡医師会役員改選で立候補をご辞退され、4月1日付けで私、坂井がその任務を引き継ぐことになった。編集の仕事をはじめて、これまでの嶋先生の御苦勞が身にしみてわかった。総会では年6回の医報発行の予定が決議されたが、なかなか仕事が進まず9月にようやく、本年度の第1号が発行されることとなった。高齢者の新人ゆえ、容赦を願い改めて嶋先生におん礼を申しあげ感謝の意を表したい。^御

今回から理事会は役割分担をし、職務の充実をはかることにした。広報担当も広報委員を数名の先生方にお願いすることが、理事会で話しあわれたが正式決定されておらず、今回は総務担当の及川理事に総会の全ての報告を担当していただいた。

『岩手郡医報』の表題は書家として活躍中の高橋孝副会長の書によるものです。カナ文字がご専門のことですが、漢字もさすがと敬服いたしました。

今回よりトップページはカラー印刷^にをするに^あすることにした。秋の夕焼けに映える岩手山を昨年の晚秋のある日、あまりの美しさにおもわずデジカメで撮った写真です。非芸術性を顧みず、採用していただいた。

県医師会野球大会の報告は例年通り、三善悟先生にお願いした。臨場感溢れるレポートをありがとうございました。^{なほ}、写真は選手として大活躍された嶋信先生が撮影された、数多くの写真の中の3枚です。選手の皆さん価値ある1勝おめでとうございました。

新入会員のご紹介では、小豆嶋先生は写真のかわりに、似顔絵をご自分で描かれ同封していただいた。